

患者・住民参画アンケート結果

2015年11月3日

患者の声協議会 第33回勉強会

趣旨

- 地域医療／がん医療の「均てん化」(どこでも質が高い状態)が必要
- そのための、地域医療計画／がん対策推進計画の「均てん化」が必要
- そのための、患者・住民委員の参画推進が重要
- 患者・住民委員参画の現状と参画促進策を知るために、患者・住民委員経験者にアンケートを実施する

送付先名簿の作成

- 47都道府県の地域医療審議会／がん対策推進協議会（それに相当する会議）
- 47都道府県の地域医療計画とがん対策推進協議会に付されている委員名簿を使用
- 患者・住民の立場に相当する方（患者・家族・患者団体／市民団体メンバーなど）（住民代表とあっても市町、村長、議員などは除く）を抽出
- 約330人存在した。ウェブ検索等によって、メールアドレス、ファクス番号の連絡先を調査
- そのうち約240人の連絡先を確保した

患者・住民委員の広がり

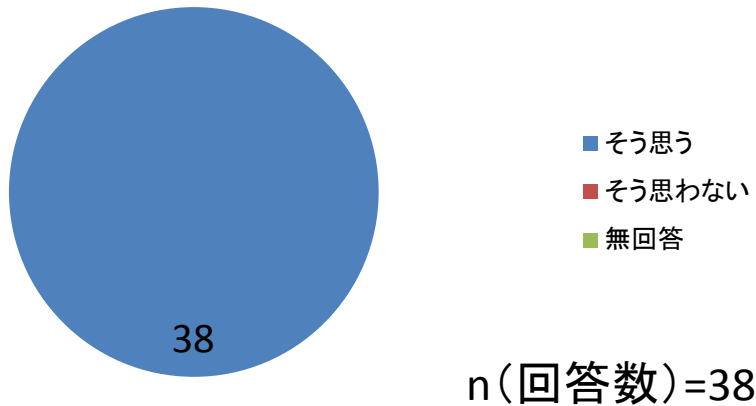
- 【地域医療計画】
47都道府県(本審議会+11部会)×3人=約1500人
340医療圏(本圏域会議+11部会)×3人=約12000人
- 【がん計画】
47都道府県(本協議会+5部会)×3人=約800人
47都道府県連携協議会(本協議会+5部会)=約800人
- 【合計】約1万5000人の潜在的な人数(地域医療構想調整会議、がん予防などの会議は計算外)
- さらに、地域包括ケア、在宅医療など中学校区単位の議論を広めるには、もっと多くの患者・住民委員の必要性がある

アンケート結果概要

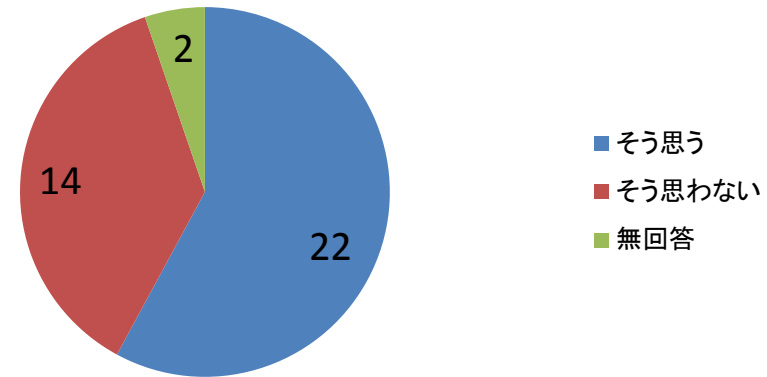
- 回答数38人(27府県)
 - 医療計画委員19人、がん計画委員18人
 - 現職30人、前職・元職8人
 - 支援者12人、地域住民10人、患者経験者6人、医療消費者3人、家族2人、遺族1人
 - 団体代表34人、公募2人、個人1人
- * ご回答いただいた方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます

参画の重要性・活発度・貢献

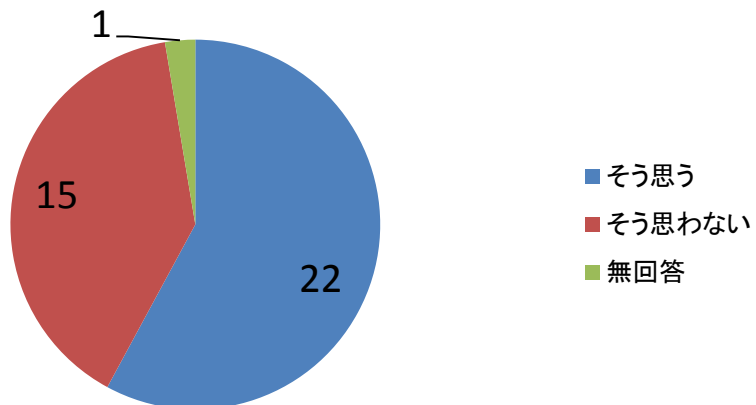
参画は重要



数年前より活発化

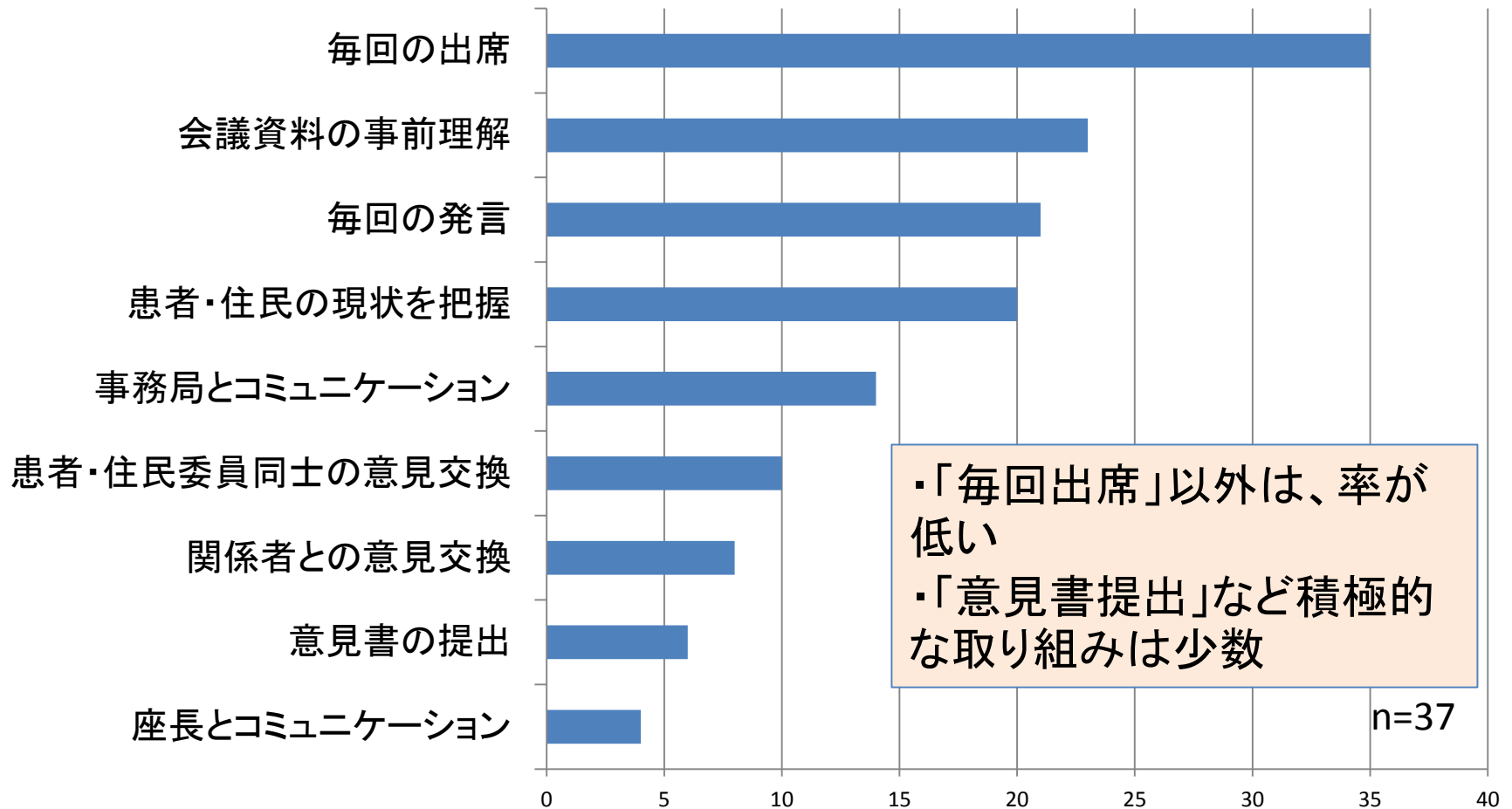


数年前より貢献度向上



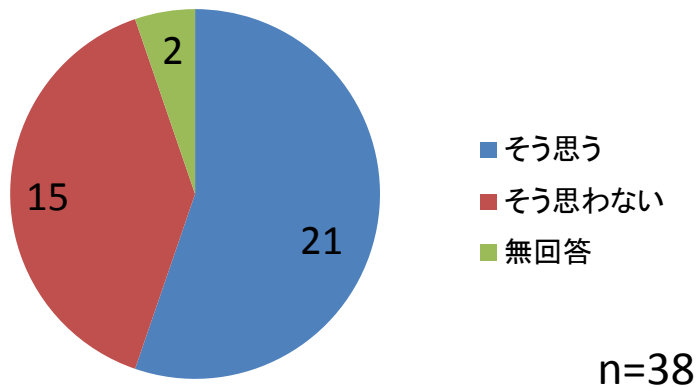
- ・全員が「重要」と認識
- ・「活発化」は6割
- ・「貢献向上」も6割
- ・「重要」と「活発化」「貢献向上」の間に4割のギャップが存在

委員としての心掛けと活動

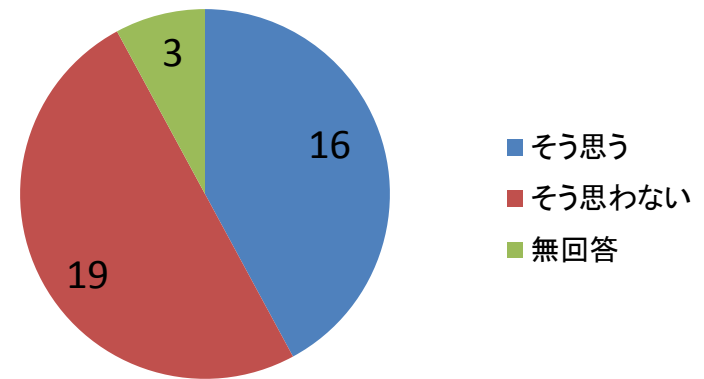


委員活動の結果

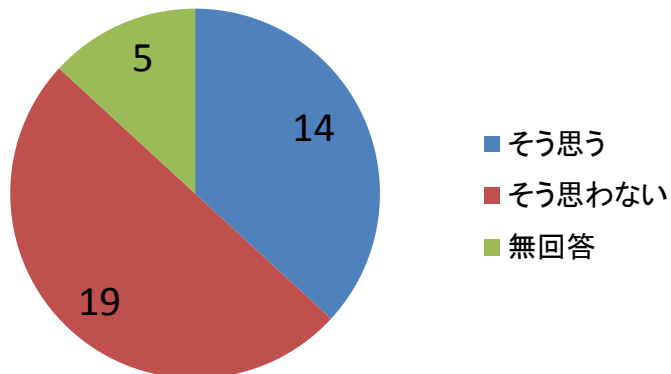
十分に意見を出せた



意見が十分に反映された

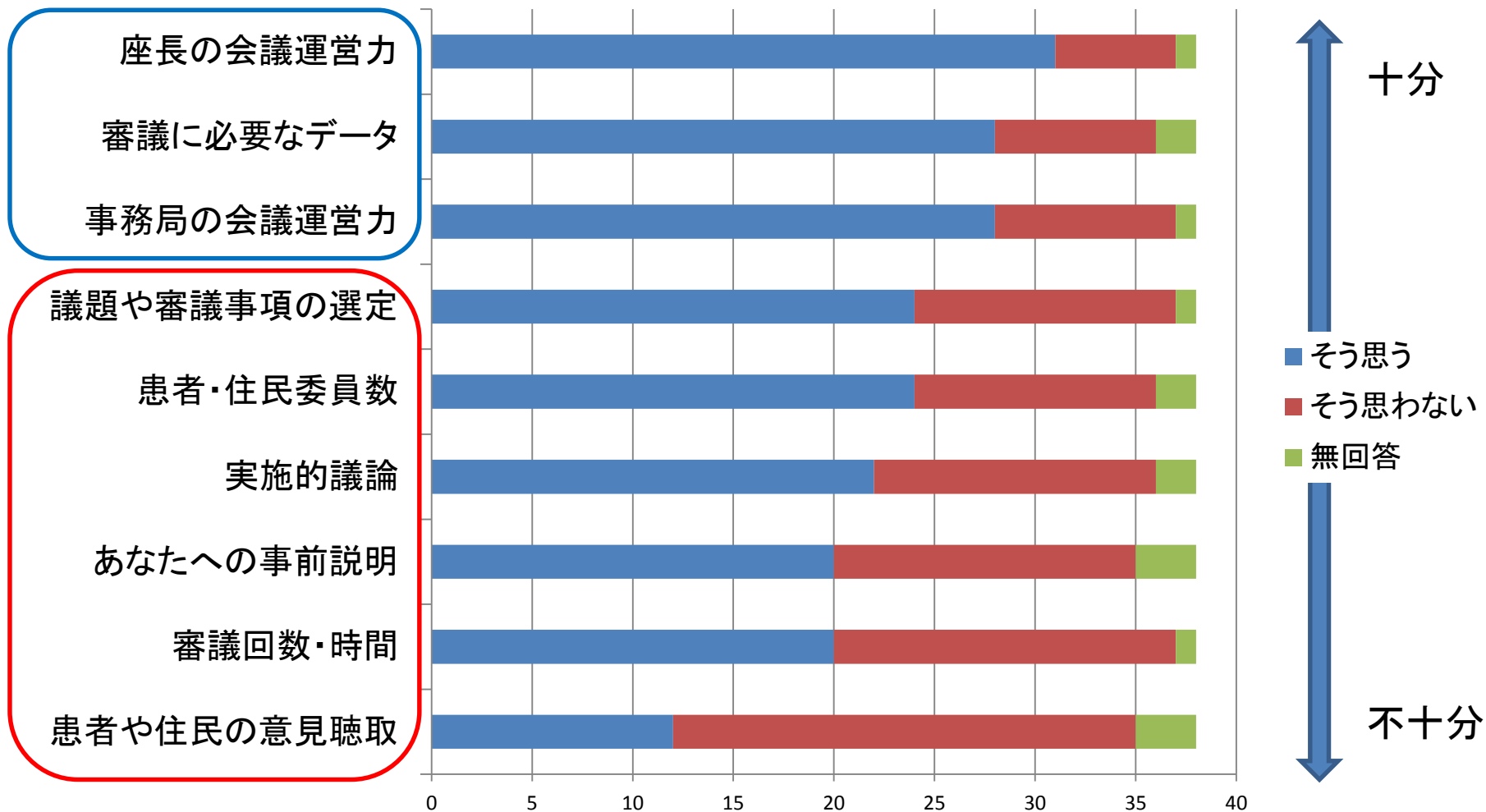


自県計画のレベルが高い

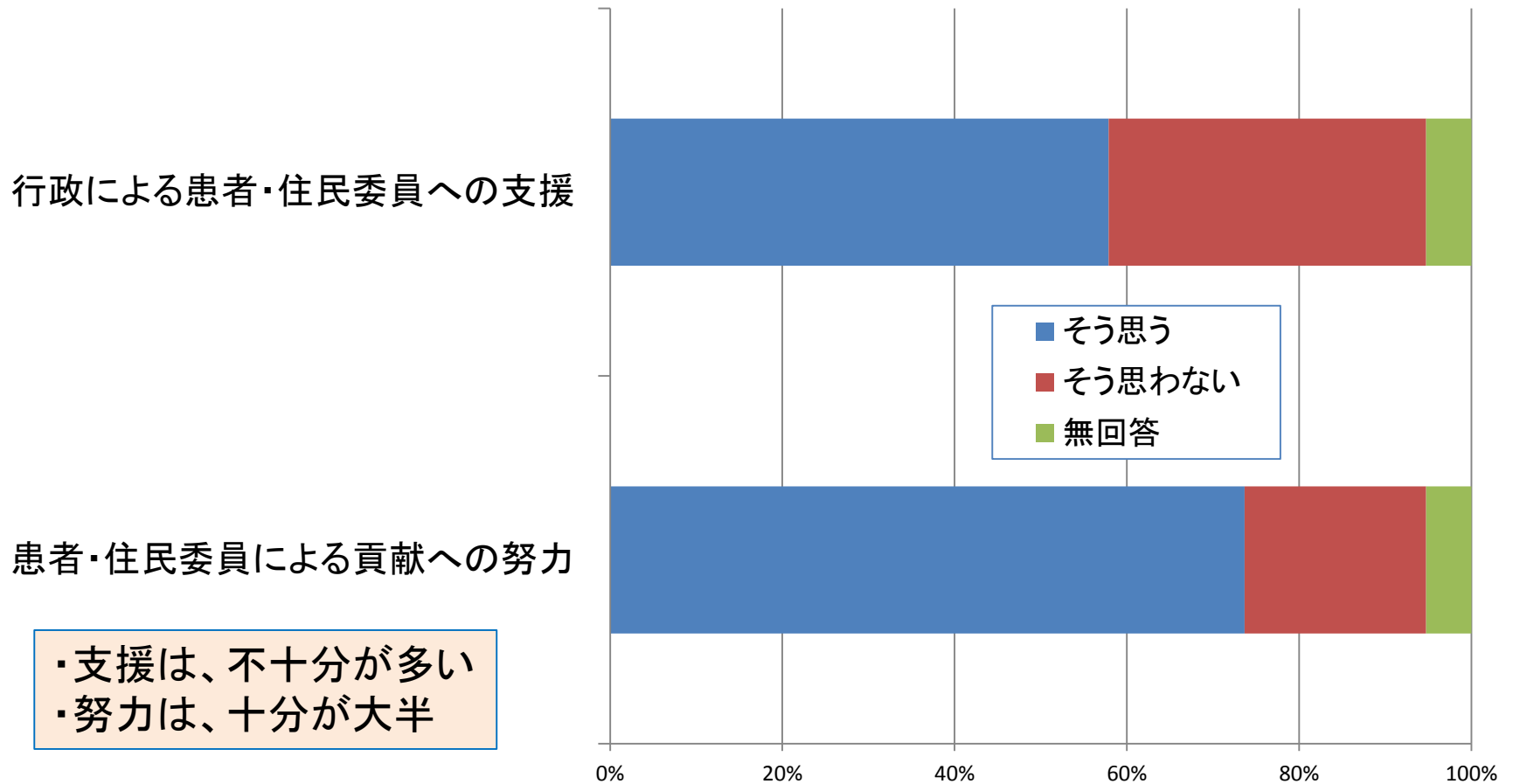


- ・意見が出せた、は過半数
- ・反映された、は半分未満
- ・計画レベルが平均以下、が多い

会議の運営（十分と思うか）

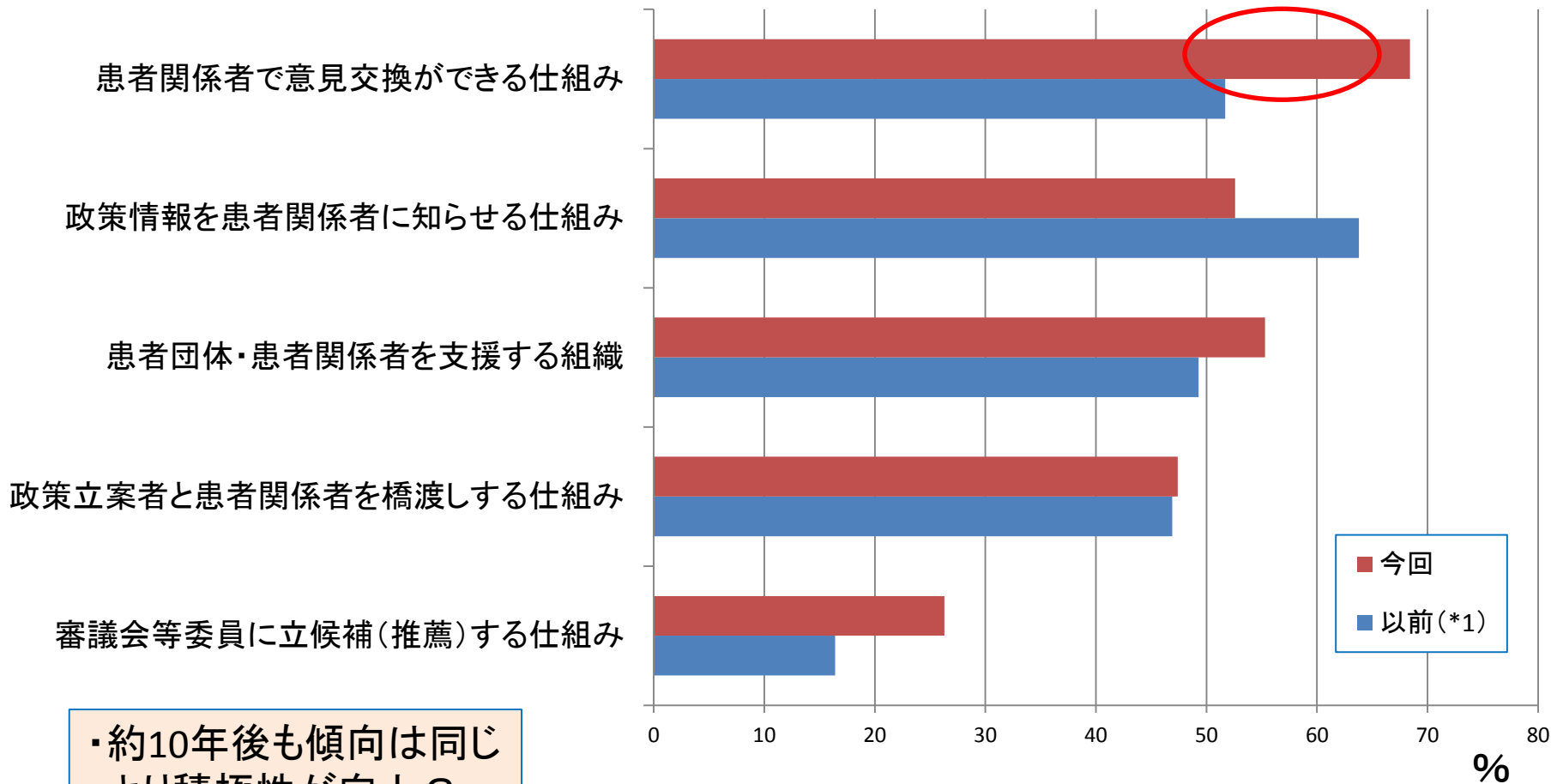


支援ニーズ／できること(十分と思うか)



- ・支援は、不十分が多い
- ・努力は、十分が大半

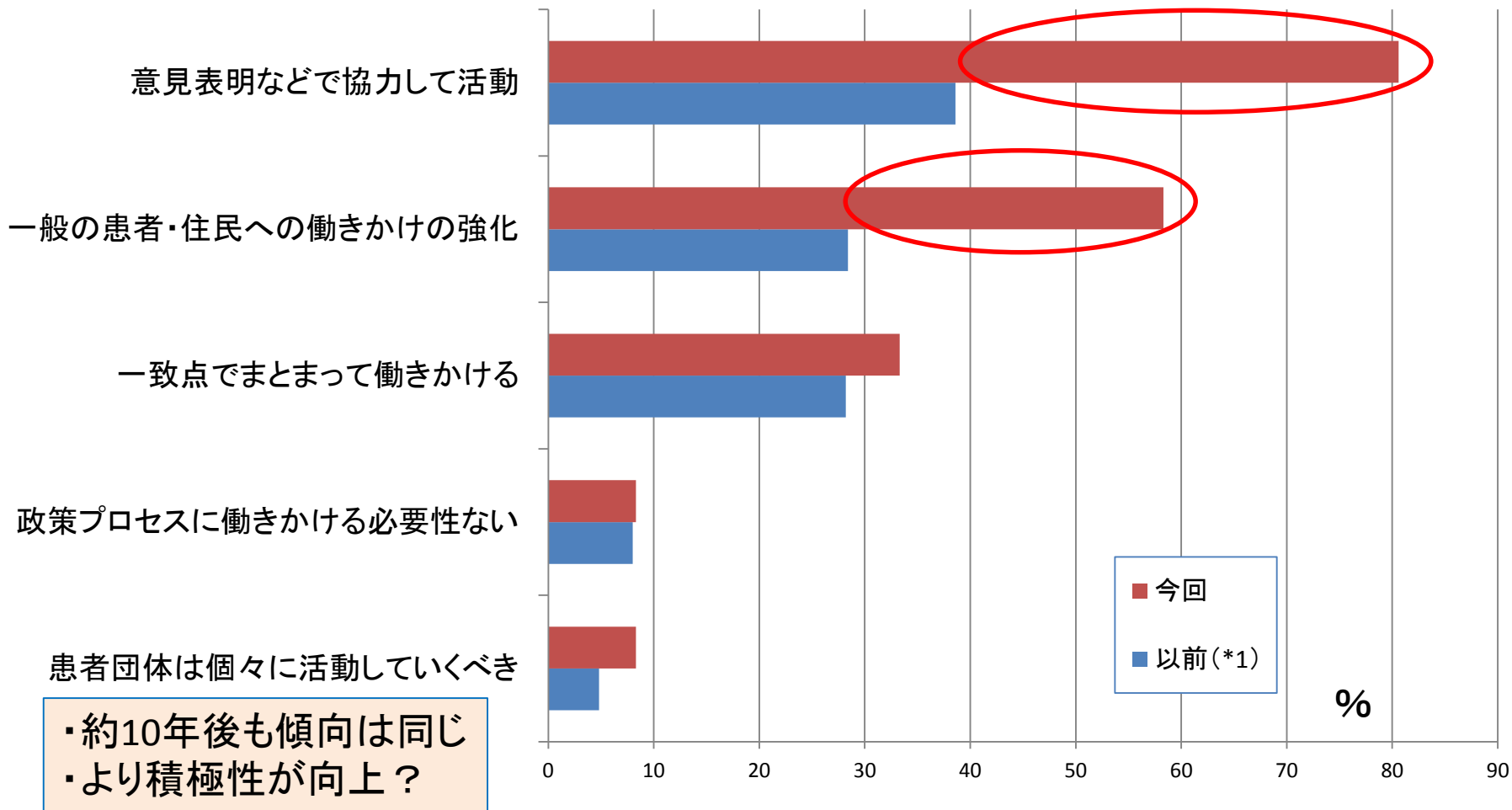
どのようなサポートや仕組みがあればよいか



・約10年後も傾向は同じ
・より積極性が向上？

*1:「患者の声をいかに医療政策決定に反映させるか」研究班提言書、2006年、n=373

患者関係者は今後どのように活動していくべきか



自由記述意見から①

- ◇「自己の事前学習が不足のため十分な審議ができなかったと反省」
- ◇「会議資料を読んでも、専門家ばかりの中で、質問すべきことを見つけたり、意見を言うのはなかなか難しいというのが正直な気持ちです」
- ◇「情報は広く集めないと、と考えてはいるが、他の役員会等との日程調整がとれず、今以上の活動は望めない」
- ◇「(自県の計画のレベルに関しては)全国の平均レベルが分からないので評価できない」

自由記述意見から②

◇「会議ではさまざまな立場の代表が来られるが、発言はほとんどされない。発言されても専門職委員と議論がかみあわない。積極的に発言される委員は限られており、もう少し患者側の意見を期待したい」

◇「患者住民の立場の委員として地域や家族の人たちの代弁者としての意見を述べていくことを任務としたい」

自由記述意見から③

◇「夜に開催されてもいい」

◇「医療に関する委員はなかなか応募者がいないため依頼されることが多い」

◇「年間の開催回数が少なく、資料とその説明に時間がかかるため、実質審議の時間がとれず、報告がほとんどであることは残念に思う。審議の時間が必要と思う」

◇「委員会では自由に発言する委員がおりません。形だけの会議になっているような感じですよ」

考察

- 患者・住民委員を増やすことが必要
- 患者・住民委員の活発さを高めることが必要
- 「患者関係者の意見交換を支援する仕組み」などが必要
- 「患者関係者が意見表明などで協働すること」が重要
- 患者・住民委員の意識／ニーズに関する網羅性が高い定点観測の継続実施が重要